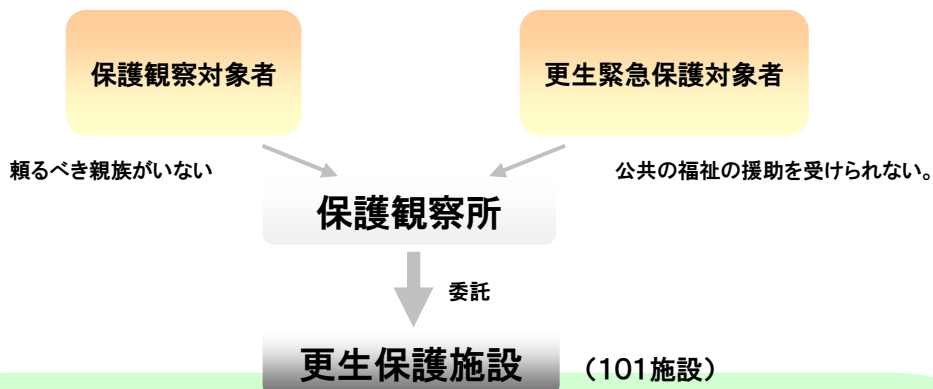


# 更生保護施設における処遇の概要



## 自立支援

宿泊所や食事の提供を行い、社会生活の適応に必要な態度、習慣、能力を養うための処遇を実施。  
例) 就労支援に関する処遇(パソコン教室等)、生活習慣の改善に関する処遇(料理教室等)

+

## 本人の問題性に応じた処遇

被保護者の円滑な社会復帰を促進するため、問題性に応じた処遇プログラムを実施。

### ○ 酒害・薬害教育 (27施設)

薬物やアルコールの問題を抱える者に対し、酒害・薬害の知識を付与し、薬物等に依存しない生活を築かせる。医療・福祉機関や自助グループとも連携。



### ○ 生活技能訓練(SST) (40施設)

対人関係の改善を目的とした認知行動療法の一つであり、社会的スキルの向上を図るとともに、行動基盤となっている認知的スキルの改善を図る。



### ○ コラージュ療法 (7施設)

芸術療法の一種であり、雑誌等から好きなように台紙に切り張りして、言語にできない感情を表現させ、抑圧された心理の開放と思考の深まりを促し、情緒の安定を図る。



## 更生保護施設における酒害・薬害教育プログラム

更生保護施設の特徴を活かした処遇プログラムにする。

更生保護施設の処遇環境により実施方法は異なるが、共通のコンセプトで実施する。

( 「更生保護施設における酒害・薬害教育プログラム導入用マニュアル」 )

### 更生保護施設における酒害・薬害教育プログラムのコンセプト

被保護者

#### 気付かせる

回復に向けての正しい  
動機付けを行い、本人  
に依存の問題があるこ  
とを「気付かせる」

#### 学ばせる

本人に酒害・薬害の正  
しい知識を付与し、依  
存を断ち切らせるため  
の手段を「学ばせる」

#### つなぐ

施設を退所後に、本人に回  
復のための努力を継続させ  
るため医療・福祉的措置が  
受けられるよう「つなぐ」

施設職員

#### 知る

施設職員が、アルコール・薬物依存についての知識や回復への措置について「知る」

地域社会にある

酒害・薬害の治療・相談機関

- ・保健所
- ・精神保健福祉センター
- ・自助グループ

## 更生保護施設で行われている酒害・薬害教育プログラムのスタイル

酒害・薬害教育プログラムの実施方法を選ぶ

自分の施設の処遇環境（地域特性や職員体制等）から実現可能な方法を検討する。

# 更生保護施設で行われている酒害・薬害教育プログラムのスタイル

酒害・薬害教育プログラムの実施方法を選ぶ。

→ 自分の施設の処遇環境(地域特性, 施設規模, 職員体制等)から実施可能な方法を検討する。

## 酒害・薬害教育プログラムを始めてみましょう!

- 酒害・薬害教育に協力してくれそうな人を知っている。
- 酒害・薬害教育の関係機関とネットワークができています。

No

複数の対象者を指導  
普通の処遇に  
ちょっとした工夫をしてみましょう。

Yes

警察関係に知り合いがいる。

医療・福祉関係に知り合いがいる。

### 専門家によるプログラム

- 専門家による酒害・薬害の講義



お酒や薬物から立ち直ろうとしている  
人たちを知っている。

### 自助グループによるプログラム

- 自助グループからのメッセージ
- 回復した人たちの話を聞く



### 集団処遇を応用したプログラム

集団処遇に  
「薬害や酒害」のテーマを盛り込んでみましょう。

集会やSSTを活用



### 個別面接を充実させるプログラム

酒害や薬害をテーマとした個別面接

ビデオやテキストを活用

プログラムの終了時には、様々な関係機関へ本人を“つなぐ”ようにしましょう!